

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、乳幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施する

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育成する

遊びを通した総合的な指導を通して、乳幼児期において育みたい資質・能力が一体的に育まれていく



小学校以上の教育

乳幼児期の教育・保育（環境を通して行う教育・保育）

知識及び技能
(何を理解しているか、何ができるか)

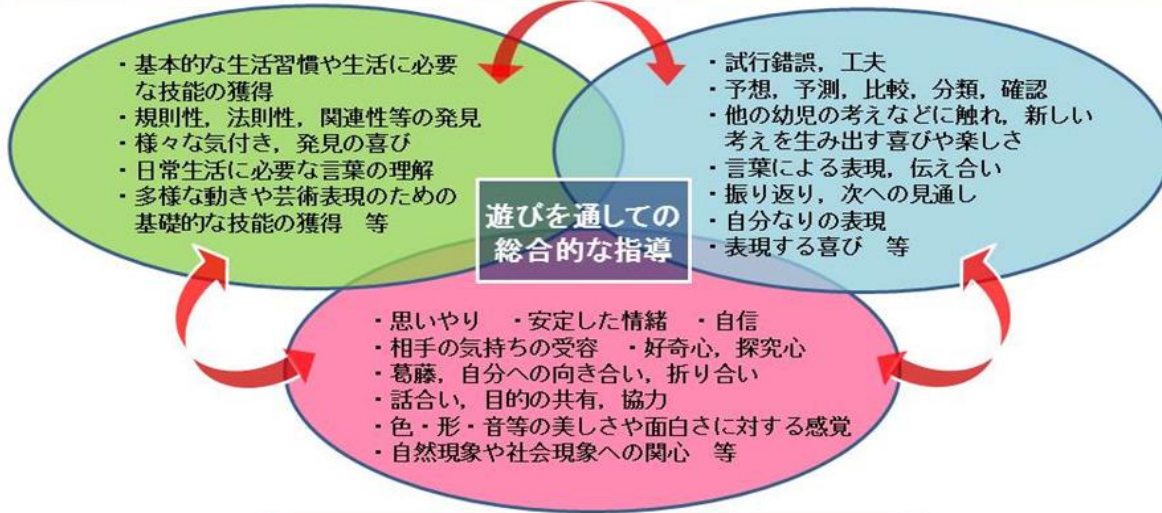
思考力、判断力、表現力等
(理解していること・できることをどう使うか)

学びに向かう力、人間性等
(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

知識・技能の基礎
(遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感したり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

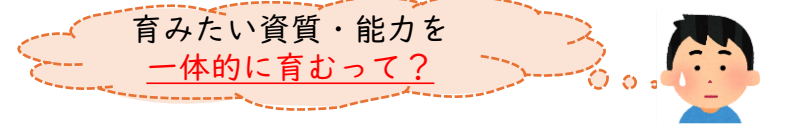
思考力、判断力、表現力等の基礎
(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、読んだり、工夫したり、表現したりするか)



学びに向かう力・人間性等
(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

三つの視点、五つの領域のねらい及び内容に基づく保育・教育活動全体によって育まれる資質・能力

- ★ 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現
- ★ 健やかに伸び伸びと育つ
- 身近なものと関わり感性が育つ
- 身近な人と気持ちが通じ合う



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは？

育みたい資質・能力が育まれているこどもの具体的な姿
※詳しくは「幼保小の架け橋プログラム」参考資料2をご覧ください。

育みたい資質・能力を育むとは？

★**乳児期においては**、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人との気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」の三つの視点で示されたねらい及び内容に基づいて展開されている教育・保育活動全体を通じて育まれる。

☆**幼児期においては**、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五つの領域におけるねらい及び内容に基づいて展開される教育・保育活動全体を通じて育まれる。

三つの視点、五つの領域とは？

- ★**三つの視点**
- 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」
 - 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」
 - 精神的発達に関する視点「身近なものとの関わり感性が育つ」
- ☆**五つの領域**
- 心身の健康に関する領域「健康」
 - 人との関わりに関する領域「人間関係」
 - 身近な環境との関わりに関する領域「環境」
 - 言葉の獲得に関する領域「言葉」
 - 感性と表現に関する領域「表現」